

【ファーストステップFX】

Part2 トレーダーとしての

レベルアップの為に

第6章

ポジションサイジング

株式会社チャートマスター

■はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等が有りましたが、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

■	ポジションサイジングとは.....	4
■	何故、ポジションサイジングが必要か？.....	5
■	ポジションサイズの計算手順.....	8
●	取引最低単位が【0. 1 l o t (1万通貨)】のFX会社の場合.....	9
○	日本円 (JPY) 絡みの通貨ペア (ドル円、クロス円) の場合.....	9
○	日本円 (JPY) が絡まない通貨ペア (ドルストレートの通貨ペア等) の場合.....	11
●	取引最低単位が【0. 0 1 l o t (1千通貨)】のFX会社の場合.....	13
○	日本円 (JPY) 絡みの通貨ペア (ドル円、クロス円) の場合.....	13
○	日本円 (JPY) が絡まない通貨ペア (ドルストレートの通貨ペア等) の場合.....	14
■	システムの質を調べる.....	16
■	標準偏差の計算方法.....	22
■	計画の重要性.....	25

■ポジションサイジングとは

ポジションサイジングとは、トレードをする際に、資金量に見合った適切な取引量で取引する事です。

資金量に対して、どの程度の取引量が適切であるか、つまり、1万通貨なら良いのか、それとも10万通貨でも構わないのか、を考える事は非常に重要です。

ポジションサイジングの概念なしに、FX会社の口座残高を期待通りに増やす事は、ほぼ不可能です。

トレードで短期的な成功を収める事は誰でも可能ですが、ポジションサイジングを行わないトレーダーが長期的に成功を収める事は、まず不可能と言えるでしょう。

逆に言えば、長期的に成功を収めているトレーダーでポジションサイジングを軽視しているトレーダーはいません。

それ程、重要なルールであるという事を認識して下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

■何故、ポジションサイジングが必要か？

相場は不確実性に支配されている世界です。

仮に、聖杯と呼ばれる必勝法とも言えるシステムがあったとしても、ポジションサイジングを無視してしまえば、破産する確率は非常に高くなります。

勝率100%のシステムがあれば、ポジションサイジングは必要ありませんが、勝率100%のシステムというものは残念ながら存在しません。バックテストの結果、100%の確率で勝てたとしても、今後も100%勝てる保証はどこにもありません。

その理由は、マーケットが不確実性に支配されている事にあります。

しかし、ポジションサイジングを適切に行なえば、勝率30%程度のシステムでも、口座の資金を増やす事が可能です。

例えば、相場が買いのシグナルを出し、買いのポジションを持つ所までは正しい判断だと思いますが、その判断が正しいか否かは、ポジションを持った時点では分かりません。

長期的に成功を収めているトレーダーは、「常に自分のトレードが間違っている可能性がある」と分かっているので、ポジションサイジングが非常に重要である事を理解しています。

買いのシグナルで、買いのポジションを持ち、相場が予想通り、上に順行した場合、その後、どれだけ利益を伸ばせるかはシステム次第ですが、もし予想に反して逆行した場合、大きな損失を出す前にポジションを手仕舞う必要があります、その時の損失額を予め決めておく必要があります。

つまり、事前に計画された損失（想定範囲内の損失）は、予想外の大きな損失を出さない為の保険の保険料である、という事が言えます。

ポジションサイジングもシステムに組み込まれる一部です。

トレーディングロジックがどんなに優れていても、ポジションサイジングがおろそかでは意味がありませんし、そこまで良いトレーディングロジックでなくとも、ポジションサイジングさえしっかりしていれば、十分なリターンを産む事は可能です。

「**1回のロスカットで失っても問題がない資金量**」＝ポジションサイ
ズは、現在では【**1%～2%程度**】が適切であると一般的には言われています。
ですので、常に2%以下でトレードをする、と決めてトレードをしても構いません。

また、使う（または、使っている）システムに合わせて、ポジションサイ
ジングを最適化する事も可能です。

** 昔(今から約100年程度前)の投資書籍の中には、10%等のポジションサ
イズが適切、と書かれているものもありますが、現在とは出来高や取引制限も
異なる為、1%～2%が現在のマーケットに合わせた数値となります。*

** ただ単に、勝率や利益率が良いからと言って、ポジションサイズを増やすの
は危険な行為です。*

例えば、100万円の資金でポジションサイジングを2%で考えた時、最大2
万円のリスクを出す計算となります。

具体的に、米ドル/日本円を買いでトレードする、としてみましよう。
エントリー値が90.30でストップロスの位置が89.85だった場合、エン
トリーからストップロスまで45pipsあります。

仮に、0.1 lot（1万通貨）の買いポジションを持ったとします。
この場合、最大リスクは4,500円となります。

取引最低単位が0.1 lot、100万円の資金で2%のポジションサイジングで
取引を行なうと事前に決めてある場合、最大取引量は、

$$20,000 \div 4,500 = 4.44444\dots$$

という計算から、0.4 lot（4万通貨）となり、最大リスクは18,000円と
なります。

式にすると、

$$P = S \div C$$

- P : Position (取引量)
- S : Size (ポジションサイズ (上記の場合は2%))
- C : Cash (取引最低単位における最大リスク金額)

となります。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ ポジションサイズの計算手順

前章の最後に出て来た、

$$P = S \div C$$

- ・ P : Position (取引量)
- ・ S : Size (ポジションサイズ (上記の場合は2%))
- ・ C : Cash (取引最低単位における最大リスク金額)

という式について、具体的な計算手順を改めてこの章にて説明して行きたいと思います。

前提条件として、下記の場合として説明して行きます。

- ・ 総資金 : 100万円
- ・ ポジションサイズ : 総資金の2%以内

[▲目次へ戻る▲](#)

●取引最低単位が【0.1lot（1万通貨）】のFX会社の場合

日本円（JPY）絡みの通貨ペアと日本円（JPY）が絡まない通貨ペアとは、1pipの金額が異なる為、以下、それぞれの場合について説明します。

○日本円（JPY）絡みの通貨ペア（ドル円、クロス円）の場合

日本円（JPY）絡みの通貨ペア（ドル円、クロス円）の場合、1pip=100円となります。

①まず、ポジションサイズを計算します。

$$\begin{aligned} &100\text{万円} \times 2\% \\ &= 1,000,000 \times 0.02 \\ &= 20,000\text{円} \end{aligned}$$

②次に、エントリーしたレートとストップロスのレートの差を計算します。

例えば、ドル円（USD/JPY）でロングエントリー、エントリーが91.53、ストップロスが91.01のような場合、

$$\begin{aligned} &91.53 - 91.01 \\ &= 52\text{pips} \end{aligned}$$

となります。

③②でエントリーしたレートとストップロスのレートの差が出たので、取引最低単位でエントリーし、そのまま損切りされた場合に失う金額を計算します。

$$\begin{aligned} &100\text{円} \times 52\text{pips} \\ &= 100 \times 52 \\ &= 5,200\text{円} \end{aligned}$$

④①で計算された金額を③で計算された金額で割ります。

$$\begin{aligned} &20,000\text{円} \div 5,200\text{円} \\ &= 20,000 \div 5,200 \\ &= 3.8461 \dots \text{万通貨} \end{aligned}$$

⑤取引最低単位が0.1lot（1万通貨）単位である為、小数点以下を切り捨てて、今回のポジションサイズは、【0.3lot（3万通貨）】となります。

[▲目次へ戻る▲](#)

●日本円（JPY）が絡まない通貨ペア（ドルストレートの通貨ペア等）の場合

日本円（JPY）が絡まない通貨ペア（ドルストレートの通貨ペア等）の場合、1 pip は通貨ペア名の右側写到ある通貨の日本円換算額、となります。

例えば、1 ドル（USD）＝9 1. 5 3 円の時、ユーロドル（EUR/USD）の1 pip は 1 pip＝9 1. 5 3 円となります。

①先ず、ポジションサイズを計算します。

$$\begin{aligned} &100\text{万円} \times 2\% \\ &= 1,000,000 \times 0.02 \\ &= 20,000\text{円} \end{aligned}$$

②次に、エントリーしたレートとストップロスのレートの差を計算します。

例えば、ユーロポンド（EUR/GBP）でショートエントリー、エントリーが0. 8 3 6 5、ストップロスが0. 8 4 1 7のような場合、
0. 8 4 1 7 - 0. 8 3 6 5
= 5 2 pips
となります。

③②でエントリーしたレートとストップロスのレートの差が出たので、取引最低単位でエントリーし、そのまま損切りされた場合に失う金額を計算します。ここでは、例として、1ポンド（GBP）＝1 3 4. 4 5 円の時であったとし、計算してみます。

$$\begin{aligned} &134.45\text{円} \times 52\text{ pips} \\ &= 134.45 \times 52 \\ &= 6,991.4\text{円} \end{aligned}$$

④①で計算された金額を③で計算された金額で割ります。

$$\begin{aligned} &20,000\text{円} \div 6,991.4\text{円} \\ &= 20,000 \div 6,991.4 \\ &= 2.8606 \dots \text{万通貨} \end{aligned}$$

⑤取引最低単位が0.1lot（1万通貨）単位である為、小数点以下を切り捨てて、今回のポジションサイズは、【0.2lot（2万通貨）】となります。

※日本円（JPY）が絡まない通貨ペア（ドルストレートの通貨ペア等）の場合、③で計算される値が整数になりませんが、実際の取引の際には、1pipの値の小数点以下を切り上げると実戦的です。

例えば、今回のように、1ポンド（GBP）＝134.45円であれば、1pip＝135円ちょうどであるとか、140円ちょうどで計算してみてください。

但し、重要なのは、1pipの値を切り上げる事です。切り捨ててしまうと、予め決めておいたポジションサイズをオーバーしてしまう事があるので、注意して下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

●取引最低単位が【0.01lot（1千通貨）】のFX会社の場合

日本円（JPY）絡みの通貨ペアと日本円（JPY）が絡まない通貨ペアとは、1 pipの金額が異なる為、以下、それぞれの場合について説明します。

○日本円（JPY）絡みの通貨ペア（ドル円、クロス円）の場合

日本円（JPY）絡みの通貨ペア（ドル円、クロス円）の場合、1 pip=10円となります。

①まず、ポジションサイズを計算します。

$$\begin{aligned} &100\text{万円} \times 2\% \\ &= 1,000,000 \times 0.02 \\ &= 20,000\text{円} \end{aligned}$$

②次に、エントリーしたレートとストップロスのレートの差を計算します。

例えば、ドル円（USD/JPY）でロングエントリー、エントリーが91.53、ストップロスが91.01のような場合、

$$\begin{aligned} &91.53 - 91.01 \\ &= 52\text{pips} \end{aligned}$$

となります。

③②でエントリーしたレートとストップロスのレートの差が出たので、取引最低単位でエントリーし、そのまま損切りされた場合に失う金額を計算します。

$$\begin{aligned} &10\text{円} \times 52\text{pips} \\ &= 10 \times 52 \\ &= 520\text{円} \end{aligned}$$

④①で計算された金額を③で計算された金額で割ります。

$$\begin{aligned} &20,000\text{円} \div 520\text{円} \\ &= 20,000 \div 520 \\ &= 38.461\dots\text{千通貨} \end{aligned}$$

⑤取引最低単位が0.01lot（1千通貨）単位である為、小数点以下を切り捨て、今回のポジションサイズは、【0.38lot（3万8千通貨）】となります。

○日本円 (JPY) が絡まない通貨ペア (ドルストレートの通貨ペア等) の場合
日本円 (JPY) が絡まない通貨ペア (ドルストレートの通貨ペア等) の場合、
1 pip は通貨ペア名の右側写到ある通貨の日本円換算額、となります。
例えば、1 ドル (USD) = 9 1. 5 3 円の時、ユーロドル (EUR/USD) の 1 pip
は 1 pip = 9. 1 5 3 円となります。

①先ず、ポジションサイズを計算します。

$$\begin{aligned} & 100 \text{万円} \times 2\% \\ & = 1,000,000 \times 0.02 \\ & = 20,000 \text{円} \end{aligned}$$

②次に、エントリーしたレートとストップロスのレートの差を計算します。

例えば、ユーロポンド (EUR/GBP) でショートエントリー、エントリーが 0.
8 3 6 5、ストップロスが 0. 8 4 1 7 のような場合、
 $0.8417 - 0.8365$
 $= 52 \text{ pips}$
となります。

③②でエントリーしたレートとストップロスのレートの差が出たので、取引最
低単位でエントリーし、そのまま損切りされた場合に失う金額を計算します。
ここでは、例として、1 ポンド (GBP) = 1 3 4. 4 5 円の時であったとし、計
算してみます。

$$\begin{aligned} & 13.445 \text{円} \times 52 \text{ pips} \\ & = 13.445 \times 52 \\ & = 699.14 \text{円} \end{aligned}$$

④①で計算された金額を③で計算された金額で割ります。

$$\begin{aligned} & 20,000 \text{円} \div 699.14 \text{円} \\ & = 20,000 \div 699.14 \\ & = 28.606 \dots \text{千通貨} \end{aligned}$$

⑤取引最低単位が 0. 0 1 lot (1 千通貨) 単位である為、小数点以下を切り捨
てて、今回のポジションサイズは、【0. 2 8 lot (2 万 8 千通貨)】となります。

※日本円 (JPY) が絡まない通貨ペア (ドルストレートの通貨ペア等) の場合、③で計算される
値が整数になりませんが、実際の取引の際には、1 pip の値の小数点以下を切り上げると実戦的
です。

例えば、今回のように、1ポンド (GBP) = 134.45円であれば、1pip=14円ちょうどであるとか、15円ちょうど等で計算してみてください。

但し、重要なのは、1pipの値を切り上げる事です。切り捨ててしまうと、予め決めておいたポジションサイズをオーバーしてしまう事があるので、注意して下さい。

文章で読んだだけだと小難しい感じですが、実際に計算してみると簡単ですし、すぐに慣れる筈です。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ システムの質を調べる

平均値と標準偏差を使い、使用しているシステム、または、使用を検討しているシステムの質を計る事が出来ます。

この方法は、トレーディングコーチのパーン・K・ターブが作った算出方法です。

先ず、初期リスクを“R”とします。

初期リスクとは、ポジションを持った時のマーケットに対するリスクの事です。トレーリングストップを行なう事により、リスクは減っていく為、“初期”としています。

例えば、100万円の資金でポジションサイジングを2%とします。

※ここでは、取引最低単位が0.1lot（1万通貨）のFX会社という設定で説明します。

具体的に、米ドル/日本円を売りで取引するとしてみましょう。

エントリーが93.45、ストップロスを93.90とした場合、エントリーからストップロスまで45pipsとなります。

米ドル/日本円では、1pipが100円となるので、エントリーからストップロスまでが45pipsの場合、0.1lot（1万通貨）の取引でストップロスの値に到達した場合、4,500円を失う事になります。

100万円の資金でポジションサイジングを2%としているので、最大初期リスクは20,000円ですが、0.5lot（5万通貨）の取引だと、

$$4,500 \times 5 = 22,500$$

という計算からリスクが22,500円になってしまい、2,500円オーバーしてしまいます。

0.4lot（4万通貨）の取引であれば、

$$4,500 \times 4 = 18,000$$

となり、初期リスクは18,000円という事になります。

その後、持ったポジションと逆行して、ストップロスの値を動かす事なく、ロスカットされた場合、

-1.00R

と定義します。

その取引の後のポジションサイジングは、先程1万8千円の損失を出した為、資金は98万2千円となるので、98万2千円の2%で、最大初期リスクは19,640円となります。

同じく米ドル/日本円を買いで取引し、エントリーが93.80、ストップロスを93.20とします。エントリーからストップロスまで60pipsあります。最大初期リスクは19,640円ですが、0.3lot（3万通貨）の取引になります。

その為、初期リスクは18,000円となります。

その後、ポジションが予想通り順行し、95.00で決済し、+120pipsで36,000円の収益となった場合、初期リスク18,000円に対して36,000円の収益なので、

$$36,000 \div 18,000 = 2$$

となり、

【ファーストステップFX】 Part2 第6章 ポジションサイジング

+ 2.0 OR

という事になります。

例として、20トレードを初期リスクの比較として表してみましよう。

総資金100万円 ポジションサイジング2% 1pips100円 とした場合							
	E/S(単位:pips)	取引量(単位:lot)	初期リスク(単位:円)	獲得psps	損益(単位:円)	資金残高(単位:円)	R倍数(単位:R)
1	45	0.4	18000	-45	-18000	982000	-1.00
2	60	0.3	18000	120	36000	1018000	2.00
3	50	0.4	20000	-15	-6000	1012000	-0.30
4	80	0.2	16000	-20	-2000	1010000	-0.12
5	40	0.5	20000	30	15000	1025000	0.75
6	50	0.4	20000	-50	-20000	1005000	-1.00
7	35	0.5	17500	45	22500	1027500	1.28
8	60	0.3	18000	-15	-3000	1024500	-0.16
9	40	0.5	20000	-40	-20000	1004500	-1.00
10	45	0.4	18000	80	32000	1036500	1.77
11	35	0.5	17500	-5	-2500	1034000	-0.13
12	40	0.5	20000	25	12500	1046500	0.62
13	60	0.3	18000	-20	-6000	1040500	-0.33
14	45	0.4	18000	25	10000	1050500	0.55
15	50	0.4	20000	-15	-6000	1044500	-0.30
16	35	0.6	21000	70	42000	1086500	2.00
17	50	0.4	20000	-30	-12000	1074500	-0.60
18	30	0.7	21000	-15	-10500	1064000	-0.50
19	35	0.6	21000	90	54000	1098000	2.57
20	40	0.5	20000	-10	-5000	1093000	-0.25
						R倍数平均	0.29

「R倍数」とは、リスクに対しての結果となります。

*より正確なデータを出す場合、最低50トレード以上のデータを推奨します。更に可能であれば、3年以上のデータがあると、より良いです。

この表の右下を見ると、R倍数平均が0.29となっています。

これは、1トレード当たり、リスクに対して29%の優位性がある、という事です。このデータを日々更新する事により、自分のシステムの優位性を見る事が出来ます。

ポジションサイジングを使う事により、常にリスク管理と複利を利用している事が重要です。ポジションサイジングを真の意味でのレバレッジとして活用する事が出来ます。

次に、R倍数の標準偏差を求めます。

計算すると、上の表のR倍数の標準偏差は1.09になります。

※標準偏差の計算方法については、次章にて説明します。

更に、「R倍数平均÷R倍数の標準偏差」の計算をします。

上の場合、

$$0.29 \div 1.09 = 0.266055$$

となります。

R倍数÷R倍数の標準偏差	システムの質
0.16~0.19	質は悪いがトレード可能
0.20~0.24	平均的
0.25~0.29	良い
0.30~0.49	優秀
0.50~0.69	とびきり優秀
0.70以上	聖杯トレード

この表は、システムの質を計る時の参考になります。

この表を見る限り、先程のシステムは「良い」というランクに入ります。

システムの質が高ければ、ポジションサイズ（総資金に対する%）を上げる事も可能ですが、最初は1%~2%に抑えて下さい。

それまでのトレードデータを使い、過去のトレードでポジションサイズが何%の時に一番効率が良いか？、0.1%刻みで計算し直して、一番資金効率の良いのが、何%なのかを調べます。

仮にバックテストデータ（過去分だけのシステムデータ）で、6.1%が一番効率が良い、という結果が出ても、いきなり6.1%というのは大き過ぎます。

決して焦る事なく、トレードしましょう。

一番大切な物は自分の資金であるという事を忘れてはいけません。幾ら仕事が出来ると噂の新入社員がいたとしても、初日から部長職を与える訳がないのと同じ事です。

本当にそのシステムが使えるのかどうかは、実際に使ってみなくては分かりません。

※しっかりとしたフォワードテストデータ（既に使用しているシステムのデータ）が含まれているシステムであれば話は別です。

ポジションサイジングの話から少し話が逸れますが、トレンドフォロー（順張り）トレードを推奨します。

トレンドフォロートレードが優れている理由として、マイナス決済の幅が決まっているのに対して、プラス決済の幅が大きい事にあります。これを「損小利大」と呼びます。

勝率よりも利益率を重視するのは当たり前と思うかも知れませんが、ほとんどのトレーダーがその行動を正しく行なえない事に問題があります。

しかし、逆張りのトレード（トレンドと逆方向のトレード）が絶対にダメと言っている訳ではなく、例えば、複数のトレンドフォローシステムの中に逆張りのトレードシステムやレンジ（横這い）のトレードシステムを追加して、総資金のドローダウンを抑える時等の役には立ちます。

但し、何の戦略もなしに、ただ天井や底だと勝手に思い込み逆張りトレードをしているようでは、資金は減る一方であり、いつまで経ってもマーケットの中で資金を搾取される側でいる事になります。

勝率が高い事が重要なではありません。
重要な事は、勝率がどれくらいかではなく、資金をどれだけ増やせるかです。

システムは、出来るだけシンプルなロジックで作る事、複数の通貨ペア（異なる相関性の通貨ペア）で通用する（優位性のある）ロジックである事を推奨します。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ 標準偏差の計算方法

前章に出て来た標準偏差の計算方法について説明したいと思います。

標準偏差を手計算するのは面倒なので、Microsoft Excel のような表計算ソフトを利用すると良いでしょう。

ここでは、18ページに掲載されている表の一番右の列にある R 倍数の標準偏差の計算を Microsoft Excel を使って説明します。

	A	B
1	R倍数(単位:R)	
2	-1.00	
3	2.00	
4	-0.30	
5	-0.12	
6	0.75	
7	-1.00	
8	1.28	
9	-0.16	
10	-1.00	
11	1.77	
12	-0.13	
13	0.62	
14	-0.33	
15	0.55	
16	-0.30	
17	2.00	
18	-0.60	
19	-0.50	
20	2.57	
21	-0.25	
22		
23		
24		
25		

① 先ず、標準偏差の計算に用いるデータを用意します。(ここでは、18ページに掲載されている表を用います。)

【ファーストステップFX】 Part2 第6章 ポジションサイジング

	A	B
1	R倍数(単位:R)	
2	-1.00	
3	2.00	
4	-0.30	
5	-0.12	
6	0.75	
7	-1.00	
8	1.28	
9	-0.16	
10	-1.00	
11	1.77	
12	-0.13	
13	0.62	
14	-0.33	
15	0.55	
16	-0.30	
17	2.00	
18	-0.60	
19	-0.50	
20	2.57	
21	-0.25	
22		
23	=STDEV(A2:A21)	
24		

②「A2 3」のセルに次のように入力し、Enterキーを押します。

=STDEV(A2:A21)

※「A2:A21」という部分は計算に用いる表の範囲となる為、各自で用いる表に基づいて変更して下さい。

	A	B
1	R倍数(単位:R)	
2	-1.00	
3	2.00	
4	-0.30	
5	-0.12	
6	0.75	
7	-1.00	
8	1.28	
9	-0.16	
10	-1.00	
11	1.77	
12	-0.13	
13	0.62	
14	-0.33	
15	0.55	
16	-0.30	
17	2.00	
18	-0.60	
19	-0.50	
20	2.57	
21	-0.25	
22		
23	1.098630128	
24		

③すると、「A23」のセルに「1.098630128」という数字が表示されます。この数字が標準偏差となります。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ 計画の重要性

トレーディングは資金を増やす為に行なう行為ですが、トレーディングは手段であって、目的ではありません。

ただ闇雲に「お金を増やしたいだけ」というだけでは、トレードで成功するのは難しいです。

まず目標を立て、次にその目標に対して計画を練る事が重要です。

トレーディングは、その計画の中の手段の一つに過ぎません。

軍人であり哲学者でもあった孫子も、兵法書の中で同じような事を書いています。

*「戦争は手段であり、戦いで必ず勝たねばならないというものではない。
政治の為の手段であり、重要な事は戦闘に勝つ事ではない。
戦争をする事は目標ではなく、目標は別にある。」*

まず目標に対して、どれだけの期間でトレードを行なうのか？

それにはどれだけの資金を用意し、どのようなシステムを使うか？

どれだけのドローダウンを想定しているか？

予想以上のドローダウンになった場合、どのような対応を取るのか？

予想出来る範囲で、起り得る事全てを想定しておけば、何が起きても冷静に対応する事が出来ます。曖昧なトレードを続けて生き残れる程、マーケットは甘い場所ではありません。

まずは、落ち着いて冷静な判断をする事を常に心掛けて下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

Part2 トレーダーとしてのレベルアップの為に
第6章 ポジションサイジング
株式会社チャートマスター